

令和4年度第1回珠洲市総合教育会議

会議概要

- 1 開催日時 令和4年8月19日(金)
開会 午後3時30分
閉会 午後4時25分

- 2 開催場所 市庁舎3階会議室

- 3 出席者 ○珠洲市 珠洲市長 泉谷 満寿裕
○珠洲市教育委員会
教育長 吉木 充弘
教育長職務代理 濱 育代
委員 葛原 秀史
委員 赤坂 敏昭
委員 大句 哲正

○事務局関係
総務課 課長 加賀 真樹
課長補佐 坂尻 寛志
教育委員会事務局 事務局長 前田 保夫
参事(兼)次長 濱野 良夫
参事(兼)次長 太佐 真一郎

- 4 傍聴者 なし

- 5 会議内容 別紙のとおり

<p>1 開会</p>	
<p>泉谷市長あいさつ</p>	<p>吉木教育長はじめ教育委員会委員の皆さんには、日頃から教育行政にご尽力いただき、改めて感謝申し上げます。本日もお集りいただき、ありがとうございます。</p> <p>珠洲市におきましては、人口減少が最大の課題であります。児童生徒数の減少も学校教育だけではなく、市全体としての大きな課題であります。一方で不登校の児童生徒数は全国で増加してきております。ちなみに令和2年度の全国における不登校児童生徒数は小学生では6万3,000人余り、中学生では13万人を超え、併せて20万人に近い状況でありますし、石川県内でも小学生で600人余り、中学生で1,380人余りということで、石川県でも小中学生で約2,000人の不登校の児童生徒がおります。その要因は一人ひとり様々だと思っておりますが、中には環境を変えることで、また学校に通える児童生徒がいらっしゃるのではないかと考えているところでもあります。珠洲市においては、それぞれの学校が少人数学校ということで、そこをつなぐことができればという思いでもあります。こうした中、8月1日に「一般社団法人教育ジャパン3776地域コンソーシアム」と包括連携協定を締結し、まずは大谷小中学校で「旅するクラスルーム」という体験型の取り組みを進めてみようかと準備をしているところでもあります。こうした不登校の生徒児童の受け入れはなかなか課題もあろうかと思っております。教育委員会の皆様と情報共有しながら、慎重に進めるべきだと思っております。本日この総合教育会議でご意見を頂戴したいと考えております。</p> <p>6月19日には震度6弱の地震もございましたし、一昨日から昨日にかけて、大雨、土砂災害警戒情報もございました。公民館や学校は指定避難所となっておりますので、そのあたりの話であったり、なかなか収束しない新型コロナなど、いろいろ意見交換ができればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>吉木教育長あいさつ</p>	<p>この教育総合会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により設けられたものであります。首長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有し、より一層市民の想いを反映した教育行政の推進を図ることが目的であると思っております。是非、今日は、市長が先ほど申された内容について忌憚のない意見交換で思いを共有できればと思っております。そして、今後とも皆様方のご理解、ご支援、ご指導をいただきながら、さらに本市の教育環境が充実した内容になりますよう取り組んでまいりたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>2 議事</p> <p>泉谷市長</p>	<p>「一般社団法人教育ジャパン3776地域コンソーシアム」とどのような取り組みを進めていくのか。こちらは「株式会社こみんぐる」。真浦で「限界集落」を「現代集落」にしようかと意欲的な取り組みをいただいております。10月22日から24日までの2泊3日で、真浦の現代集落を拠点に体験型の取り組みが計画されています。</p> <p>今後については、教育委員会の方で小規模特認校のご検討をいただけないかお願いをしたいと思います。こちらにつきましても、まずは大谷小中学校からという思いでもございますので、その点につきましてご意見を賜りたいと思っております。</p>

<p>濱 教育長職務代理</p>	<p>当初イメージしていたのは、不登校の子ども数名がやってきて、大谷小中学校の子どもたち色々な交流をもつ中で、学校の居心地の良さなどを感じながら進めていく活動につながっていくのかなというイメージだった。今年度は真浦町が中心になっていて、学校の子どもたちとの交流は少ない。不登校の子どもたちと話をすると、学校という言葉を聞いただけで行きたくないとか、学校の空気感も嫌という子どももいる。色んな段階を抱えている子どもたちが入ってくる中では、かなりハードルを低くしたところからスタートしていかないと長続きしないのかなというような思いです。給食をちょっと一緒に食べたり、ちょっと子どもたちの姿が色んなところで見え隠れするような段階がスタートの段階なのかなと思いました。</p> <p>もう一つ違う側面で、地域に溶け込むためには、地域の人たちとの受け皿づくりも長いスパンで計画しないといけない。今年度いろいろと計画はされているが、地域の人たちが全然知らなかったでは進まない。今後、大谷小中学校に子どもたちが入ってくるためには、地域に発信する準備が必要かと思う。</p>
<p>泉谷市長</p>	<p>先ほど来の「一般社団法人教育ジャパン」の中島代表と話している中でも、そのハードルを下げるということがございました。自分とすれば、できれば今までの通常の授業の進め方の中で上手く馴染んでいただければなというイメージでいたんですけど、相当内容変更することになりますと、本来の大谷小中学校の教育に影響を受けないか懸念がありまして、そこが自分でも腹が固まっていないというのが正直なところですよ。その点について教育長のお考えはございますでしょうか。</p>
<p>吉木教育長</p>	<p>まず不登校で来る子どもたちが、大谷という地域、珠洲という地域を理解してもらうこと、気に入ってもらうことがまず大事かと思えます。その中でどういうロードマップを描いていくのか、段階的に進めていく必要があるのかなと。まず地域を知って、その中で大谷の子どもたちとの交流をどこで、どういう形で持っていくのかということ。そういった段階で、例えばオンラインで大谷での授業を体験してもらうといった機会を加えていきながら、体験的にある一定期間、大谷の学校で学んでいただく。それが行く行くは移住・転校につながっていくというのが一番の理想なのかなと思うんです。</p> <p>一方で、「特例校」として、教育のカリキュラムそのもののハードルを下げる、そういった学校も実際に全国的に見ればあるにはある。そうすると市長が言われたとおり地元大谷の子どもにも影響が出てきて、なかなか難しいとこなのかなと思う。私自身は、今あえて大谷に特例校という措置をしなくても、首都圏や県内の学校と比べても、珠洲市の学校そのものが体験活動は多くできているし、珠洲市の中でも大谷は多くのいろんな体験があります。ほぼ特例校に近い現状にあるのではないかと今のところ私はそのように受け止めています。そういった中で、さらに少し工夫する余地があるのかということからは、今後、状況をみながら考えていきたいと思えます。</p>

<p>泉谷市長</p>	<p>いずれにいたしましても、来年度4月に10人も20人もということには、なかなかいかないだろうなと思います。あとは、地域の皆様のご理解が得られなければ進められないと思います。まず大谷小中学校を対象としたのは、地域と学校の結びつきが非常にしっかりしていることから、まずは大谷小中学校で、という思いもあります。そこにおいてですね、地域の方が協力する以前に何も知らないといった中で、いきなりやってきても、「何だこれ」となってしまうと思います。「こみんぐる」の林さんも地域のためにという思いでありますので、そこは上手く繋がらないと難しいと思うんですよ。「こみんぐる」の林さんだけが色々関わってということではよろしくないと思います。「こみんぐる」の林さんはとりあえず色んなところを繋いだ、後は地域としてどう動いていくかということになるのではないかなと思いますし、そうならないと前に進まない。そこをどうしっかりと取りまとめていくか、ご理解いただいていくかというところが大事と思っている。</p>
<p>吉木教育長</p>	<p>大谷小中学校も学校運営協議会でコミュニティ・スクールがスタートしています。コミュニティ・スクールは地域の方が学校運営協議会に関わって取り組んでいますので、そういったところも通じながら、どんどん地域の方に関わっていただければよろしいのではないかなと思います。</p>
<p>泉谷市長</p>	<p>あとは、保護者と児童生徒と一緒に珠洲に来られて大谷小中学校に通うというのが一番良いんですけど、児童生徒だけを受け入れるということができるのかどうか、そうなると下宿などのご協力をいただくお家がないとできない。そのあたりについても、今ご説明しながら春に向けてというわけにもいかないと思う。全くご協力いただけないかという、中には受けてみようかという方がおいでるかどうか、そこが未知数でありますね。</p>
<p>濱 教育長職務代理</p>	<p>スズ・シアター・ミュージアムは上手く軌道に乗ってきた。最初は市役所に頼まれたからと言っていたが、最近は、自分たちが頑張らん、地域を活性化させるためにと、なってきた。関わった人たちに広がってきて、それが家族にも広がってきている。それと一緒に、今回の林さんの活動も、今後、地域の人たちが関わっていく中で、不登校であった子どもたちを支えていこうとか、地域子どもたちという感覚になるような仕掛けが織り交ざっていくと成功していくんだろうなという気がします。公民館の「子どもを育てる会」などいろんなところが動き出せば強いものになっていくだろうなと思います。そうなると下宿の件なども主体的に動いて形になっていくかなと。先に全てを準備してしまうと、やらされている感じになる。文科省の教育委員会向けのオンライン研修会でも、箱だけを準備しても動かない、不登校の子が入っても長続きしない。ここなら大丈夫だと心を開けるような土づくりにここ2～3年は必要なかなと思います。全国のたくさんの失敗例のお話を聞きながらそう思いました。</p>
<p>泉谷市長</p>	<p>とりあえず、まず関わっていただく学校運営協議会とすり合わせることでしょね。そこには地域の方々が関わっていらっしやるということですので。そんな簡単に進む話ではないと元々思っているんで</p>

	<p>すけど、国全体、県全体の不登校の課題と珠洲市の児童生徒数の減少という課題を上手くつなげることができればなという思いなんですけど。ほか、委員の皆様ご意見ございますでしょうか。</p>
<p>大句教育委員会 委員</p>	<p>かつての勤務の経験だが、寮のある学校で、生徒数が少なかったため、加賀から小松から白山から生徒を募集していた。学校で学習する時は先生が見ているため安心だが、一番の心配はアフタースクール。県立の場合は教育寮で、4月5月は必ず教員が四人体制、男性寮二人、女子寮二人が補助する体制だった。そこが上手くいくかどうか、その生徒が残るかどうかという気がしました。学校が終わって自分の部屋に入って生活する時になって上手くいくかどうかがとても大事だと思いました。</p> <p>例えば、小中学生を受け入れる。寮がありませんので家庭で、単独でとなるとそこがネックかなと。受け入れる方に余程理解してもらわないと。教育という面で我が子同然に育ててもらい、温かいものが必要になるのではないのかな。家族で来てもらうのが一番良いが、家族で来られないとなると、受け入れる家庭の理解、情熱がとても必要になってくるのではないかなと思いました。</p> <p>珠洲市全体の教育力は高い地域だと思っています。学力テストをみても石川県全体は高いが、珠洲市はいつも高い。その中でも大谷の教育力が高いと思っています。これは生徒、先生が頑張るだけでなく、地域の方の教育に対する理解が高い、意識が高いいつも思ってます。地域的に大谷の方の理解がうまく得られれば、いい場所かなと感じています。経験上、頓挫した子もいます。上手くいった生徒も何人も見てきました。絶対ダメと悲観する話ではなく、地域の方を巻き込んで上手くいけばいいなと思っています。</p>
<p>泉谷市長</p>	<p>上手く動き始めそうだといいところまでできましたら、石川県内で児童生徒が少し地域を変えてできないかなという思いもあるんですけどね。</p> <p>教育ジャパンの2泊3日の取り組みは全国で募集するんですよ。どういった方々がお越しになるのか分かりませんし、いろんなプログラムの中でも、学校運営協議会の方々に関わっていただきたいとか組み立てもこれからだと思いますので、色々を見ながら進めていければなと思います。</p>
<p>葛原教育委員会 委員</p>	<p>保護者の立場から、不登校の話聞くことがあるが、不登校には様々な要因がある。不登校の子が急増しているのは、その原因も多様化しているからだとして感じています。なぜ、こんなことがと親が思うことも原因になっていると思う。</p> <p>その中で市長が進めていく「教育ジャパン」との取り組みは、珠洲市の少人数になっている学校には有効的な事業の一つであると感じております。「教育ジャパン」が珠洲市でこれからやろうとしている流れが示されているが、他の地域の事例、他の地域ではどのようなプログラムでやったのか示していただければ、それを参考に議論できる材料になるのではないかと思います。大自然に触れることで立ち直ったり、やりたいことを見出したりしたことがあると思うので、「教育ジャパン」の</p>

	<p>他地域での事例をお示しいただければ、珠洲市としてどういう取り組みにすればいいのか方向性が見えてくるのではないかと思います。</p>
泉谷市長	<p>私が聞く限りですね、いろんな取り組みをどのようにされているのかという以前に、「教育ジャパン」が自治体と包括連携協定を締結したのは珠洲市が初めて。「教育ジャパン」からすれば、これから色々な自治体と連携していきたいということなんですが、まずは第 1 号です。イベント的な取り組みを他の地域でやったのかは分かりませんが、珠洲で色々取り組みを進めることができればという思いでいらしゃるのではないかと思います。</p> <p>その件について教育委員会で情報はありますか。</p>
前田教育委員会事務局長	<p>昨年度は金沢市で、友禅の関係で、保護者と子どもを数組招待して事業を行っております。これから珠洲で事業を進めると伺っております。</p>
泉谷市長	<p>まだまだ始まったばかり、これから始めていこうという感じですね。珠洲でいい事例ができればいいんでしょうけど。</p>
赤坂教育委員	<p>泉谷市長が就任されてから、様々な先進事例に取り組みされてこられました。今回も全国の不登校の生徒を受け入れということは、全国に先駆けてということで、今年、来年、再来年と取り組みられることで全国の先進地になると思います。珠洲市はたくさんの不登校生徒を受け入れるには最適な地だと思っています。</p> <p>修学旅行の例をみても体験ということは必要と思います。プログラムを見ると畑での収穫があるが、私の職業柄、学校での木工教室や行灯作り教室をすることがあります。1 時間から 2 時間、休憩することなく生徒が集中的にできるプログラムもあります。石川県産「あて」の木を使った体験プログラムも入れていくことで、地域の活性化を生みだせればなと思いますので、協力できるところは協力いたしますので、その辺りもご配慮いただければと思います。</p>
泉谷市長	<p>不登校の要因は一人一人様々だと思いますし、1 週間 2 週間で学校に行き始める児童生徒もいるかと思えば、数年間全く学校に行けず、義務教育を終えてしまうお子さんもいるかと思っています。どのタイミングにはまれば、場所を変えて学校に行ってみようかという気になるかといえば、全体のごくわずかだと思うんですよね。全国 20 万人のうちほんのわずかだと思っていますし、石川県内 2,000 人の中のごくわずかの人数ではないかと思うんですけど。それでも 1 人でも 2 人でも大谷小中学校で再び学校に通えるようになったというお子さんがいらっしゃれば、それはそれで価値があることではないかと思っていますので、1 人でも 2 人でもそのようなことができればなという思いで進めたいと思いますので、またいろいろとご意見ご指導いただきながら取り組みたいと思いますし、もちろん地域の皆様の協力が一番大事だと思いますので、その辺りも含めて教育委員会の皆様、何卒よろしくお願ひしたいと思います。</p>

	次に「小規模特認校」。さきほど特例校という話がありましたが、それとは意味合いが違うと思うのですが、特認校についてご説明いただけますでしょうか。
吉木教育長	<p>通常、学校は住所地によって通学区域が決められていますけど、特認校というのは、市内のどの地域からも通学を希望でき、通学区域がないものと受け止めていただければよいのかと思います。大谷小中学校を例にしますと、真浦から高屋までが通学区域となっていますが、大谷小中学校を小規模特認校とした場合は、市内どこからでも希望して通学することができます。</p> <p>市内に特に大きな学校はないですが、より小さく少人数の学校でゆっくり学びたいという子どもたちもいるように思われます。仮に緑丘中学校の通学区域であっても、そういった場合は希望すれば大谷小中学校に入れるということを珠洲市でも考えていけばよろしいのではないかと思います。</p>
泉谷市長	珠洲市教育委員会として、大谷小中学校を小規模特認校としますよということ、県教委に届け出たり文科省に申請するといった手続きは必要ないのでしょうか。
吉木教育長	必要ありません。珠洲市で決めて始めることができます。
泉谷市長	保護者への周知も必要になってきますね。
【教育委員会事務局から制度の補足説明】	
泉谷市長	<p>小規模特認校とするには要綱の制定が必要ということですが、議会での承認ということまでは必要ないということですね。</p> <p>ただ、来年度スタートするというスケジュールから行けば、来月の議会で議員の皆様にはご説明しておかないといけないなということですので、提案説明や常任委員会での説明ということになるかと思えます。こちらにつきまして何かご質問であったり、小規模特認校を大谷小中学校で進めていくことに対するご意見等々ございますでしょうか。</p>
大谷教育委員会委員	今も学区を越えて違う学校に行ってる生徒いますよね。それと特認校の大きな違いを保護者に聞かれた場合どう答えればいいんでしょうか。今は理由書みたいなものがあると聞いているが。
吉木教育長	指定校変更制度という形で、例えば部活動。野球部のない中学校の区域だけど野球がしたいから緑丘中学校を希望するといった申請書を出して、それについて適切と認められれば許可をする許可制ではありますが、それが許可制ではなくなることになります。
大谷教育委員会委員	届出だけでOKになるということですね。分かりました。
泉谷市長	それについて大谷小中学校のみを特認校にするということになりますね。

吉木教育長	<p>具体的になりますが、例えば上戸小学校 6 年生に対し、緑丘中学校は学校説明会をしますが、大谷小中学校が特認校となることで、大谷小中学校も上戸小学校へ説明会を行うことができるようになります。</p>
泉谷市長	<p>あとは通学の手段をどうするかは個別の課題となります。</p>
大谷教育委員会委員	<p>小規模特認校の対象となる学年はすべての学年とありますが、3 年生までは飯田小学校で 4 年生から大谷小中学校ということもありということですよ。分かりました。</p>
濱 教育長職務代理	<p>小規模特認校が始まった当初は、大規模校に子どもを通わせるのが怖いとか、イジメられるのではないかと、個が認められないのではないかと、保護者が小さな学校で個を大事にしてくれる学校にやりたいという思いから。大きな学校から小さな学校を選ぶということで札幌でスタートしたと記憶しています。今は少しずつ形を変えながら、小さな学校の統廃合を無くす手段として全国では増えてきている。岡山県や岐阜県の特認校の先生達とお話した時、かなり準備をしっかりとしないとメリットよりデメリットが大きくなり失敗している事例がかなりある。後々になって転校を希望したり、保護者が地域に馴染めないなど、いろんな要素があるので、そのあたりを想定しながら特認校を進めていかないと、後々困るのは保護者だったり、入ってきた子どもたちだったりする。そして受け入れ側の先生方も特認校を理解していないとデメリットの方が大きくなっていくのかなという気がします。反対というわけではなく、準備段階をしっかりとしていくことで、小さな学校で伸び伸びと育てたいという保護者も結構います。また、特認校は保護者の送迎が原則となっていてところが多いので、保護者の負担になっていることもよく聞きます。また、成人式などでは、地元にはないので地元愛というあたりでいろいろ思いがあるようです。いろんなことを想定しながら準備を進めていかれた方がいいかなと思います。</p>
吉木教育長	<p>今現在、県内では、金沢市の医王山小中学校、内灘町の西荒屋小、かほく市の金津小などがあります。医王山は地域の方がスクールバスを出しています。</p>
泉谷市長	<p>こちらについても、来年度からとしたところで一気に 5 人、10 人ということではないと思うんですよ。いろんな児童生徒の人間関係も含めて、そのままこの学校に行くとすると、なかなか行けないといったときに、大谷小中学校ならということもあるとすれば、それはそれで子どもたちにとっては選択肢を広げるという意味で良いのかなと思いますけどね。</p>
濱 教育長職務代理	<p>来年度の開設に向けての準備と、さっき言ったような細かいメリットを大きくするための準備を並行していただければいいのかなと思う。最初はゼロかもしれないけども、そのうち 1 人 2 人が大谷小中学校へ行って良かった、すごく変わったというのが広がってくれば、自分たちが目指すものに近づいてくると思います。</p>
泉谷市長	<p>本来は、この地区はこの中学校というものがあるんですけど、そこに本当に行きづらいという児童生徒があったとすれば、確かに成人式の</p>

	<p>時に、その地域で記念写真というところも含めて、地域に対する愛着といったところまではなかなか難しいだろうなど。大谷小中学校に通う。その地域との結びつきとか後々のことを飛び越えて、まずはとにかく大谷小中学校で学ぶということがより大きいかもしれません。いろんなパターンとかケースもあるのかなと思いますけど、少し選択肢を広げるという意味でやってみるといってもありなのかなと思います。</p>
吉木教育長	<p>部活動を理由にして区域外への通学の申請は、大体が小さい学校から大きい学校なんです。特認校制度を取り入れることで、逆の動き、大きな学校から小さな学校に行くというハードルを少し下げることができるんじゃないかなと思います。</p>
泉谷市長	<p>例えば飯田から大谷に通うといっても、30年前と比べると道路もよくなりましたし、感覚的にも違ってきていると思いますけど。</p>
吉木教育長	<p>先ほどのクラスジャパンの「旅するクラスルーム」についても、大谷に居住しなくても、仮に飯田で居住していても大谷小中学校に行けるということになります。</p>
泉谷市長	<p>ということからすると、やっぱり二つ合わせてということがいいかもしれませんね。</p>
吉木教育長	<p>今も申請さえすれば大谷小中学校に通うことができるんですけども、それをなくしてというのがハードルを下げることになる。</p>
泉谷市長	<p>教育ジャパンの対象となる学校になる、また、小規模特認校にも大谷小中学校がなるということに対して、大谷の皆さん、前向きに捉えていただければ一番いいかなと思いますけれども。 何かの機会に地域の皆さんと話をするのが大事ですね。</p>
大谷教育委員会委員	<p>環境を整えておくことはとても大事なことだと思います。大谷の人に十分理解してもらって受け入れてもらう。そういうムード作りは大事だと思います。一人でも二人でも救われる子がいれば、私は絶対に成功だと思います。進めていただければと思います。</p>
泉谷市長	<p>まずは地域の皆さんに丁寧に説明するところからはじめるのが大事ですね。</p>
泉谷市長	<p>本日の議題、全体を通してご意見頂戴したと思います。</p>
濱 教育長職務代理	<p>新型コロナの初期、蔓延しそうなとき、学校現場にいろいろ配慮していただきました。ありがとうございました。</p>
泉谷市長	<p>これから新学期が怖いですね。そこは気を引き締めて、しっかりと対応していきたいと思います。</p>
葛原教育委員会委員	<p>緑丘中学校は8月30日から修学旅行が予定されております。京都・奈良方面が予定されています。すでに健康チェックが始まっています。</p>

吉木教育長	今のところ実施の方向です。きめ細かなコロナ対策のガイドラインを設けています。
泉谷市長	<p>去年くらいに修学旅行を決定した全国のいろんな学校を見てみると、バスの中でも一言もしゃべってはいけないとかあって、あれは大変だなと思いましたね。節度ある行動で気を付けてください。</p> <p>そのほか、特段、不登校の児童生徒の受け入れや小規模特認校につきましてはよろしいでしょうか。</p>
濱 教育長職務代理	みんなで段階的に話ができる機会があればいいかと思います。
泉谷市長	本当に人口も少ないですし、児童生徒数も少ないんですけど、少ない中でも、だれ一人取り残さない、そういうことをしっかり取り組んでいきたいと思いますし、珠洲市のそういった取り組みが、県や全国にも良い事例としてつながればいいかなと思います。
泉谷市長	<p>その他ということで報告でございますけれど、6月19日の地震によって学校施設も傷んでいます。特に緑丘中学校の第2体育館へ向かう途中の渡り廊下。部室もあるんですが、そこが相当傷んでいますので、そのまま復旧をするのか、もしくは取り壊して、コンテナかプレハブで用具の置き場にした方が工事もしやすいのかなと考えております。それも含めて、緑丘中学校で地震の復旧費予算で1,350万円くらい、飯田小学校で約560万円、正院小で380万円、直小で50万円くらいとそれぞれ損傷しております。</p> <p>学校教育施設の災害復旧となりますと自治体の負担はわずか数%で済むんですが、緑丘中学校の第2体育館は「市民体育館」であって、学校教育施設ではない。今までも老朽化や耐震性も含めて難しい面があったのですが、今回の地震でフロアが一部沈下して波打っている状態ですので、使用には耐えられないかなと。使用禁止という状態です。そのまま引っ張るのも危険かなと。どこかで取り壊さないといけないのですが、取り壊し費用は全額珠洲市の負担ということになります。現在、国会議員の方々を通して、公の施設が地震によって被害を受けて取り壊さざるを得ないときに、何か国として支援していただけるのかお願いしております。それがもし通れば、そこから解体に向けて動けばなと思いますし、いくら待っても動きがなければ、どこかで決断をしなければいけないのですが、今、そのような状況であることをお知らせをしておきたいなと思います。</p>
泉谷市長	<p>また、一昨日から昨日の朝方にかけての大雨。昨日の明け方に土砂災害警戒情報もでました。珠洲市といたしましては、一昨日の夕方からレベル3の高齢者等避難ということで10地区の公民館を避難所として開設しまして、昨日の朝に避難指示に切り替えたところでありました。</p> <p>最大で11名の方が避難をされました。正院、日置、大谷公民館で、残り7か所はゼロでした。職員2名をずっと一晩中従事させるのも大変で、朝8時半に一人引き上げさせ、お昼12時には、間もなく土砂災害警戒情報が解除になるという情報がありました。そこで、もう一人も</p>

	<p>引き上げさせたが、しばらく避難所を開設したままとなると、公民館長と公民館主事に負担をおかけすることになるんですけど、1時間くらいお願いできないかということで、お願いをして、職員は12時で引き上げました。</p> <p>今後このようなことがあると思います。6月19日の震度6弱から1年間はおそらく、珠洲市においては大雨警報も土砂災害警戒情報も他の地域の7割で発出される、ハードルが下がっています。ちよつとの雨で避難指示に必要性が生じてまいりますので、公民館のみならず、学校の体育館を避難所として開設することもあると思われます。場合によっては、公民館長、公民館主事あるいは学校長の協力をいただければなと思いますので、教育委員会の皆様におかれましても念頭に置いていただければなと思います。</p>
吉木教育長	<p>次回から、公民館の開館時間で、避難者がいない場合は館長と主事で対応していただくよう、昨日10館すべてお願いに回りました。了解していただきましたので、避難者がいない場合で、館長、主事が居て、市の職員が更にとという状態は、日中はなしとなります。</p> <p>もうひとつは、避難指示が出てなくても、公民館は、地域の方が危険を感じた時には避難を受け入れるべきだと思いますので、併せてお願いに回ってきました。</p> <p>委員の皆様にもご了承いただければと思います。</p>
泉谷市長	<p>学校の体育館を避難所として開けた場合で、実際に避難者がいらっしゃる時は、学校の授業も行っている時間帯であれば、学校の先生方をお願いするわけにはいかないというふうに思いますが、こういう時であれば、またご協力をいただければと思います。</p>
泉谷市長	<p>トライアスロン大会は残念ながら3年連続中止せざるを得なかったんですが、少し距離を短くして接触機会を減らして開催できないか模索したんですけど、750名の募集があれば珠洲市の補助金400万円で何とか収支、採算がとれるということだったんですけど、応募された方は518名でしたので、補助金が400万円の倍の800万円で何とか収支が合うのかなと。そこから50人、100人とキャンセルが出ると珠洲市の補助金がいくらになるのか見当もつかないということで、議会や市民の皆様からのご理解はいただきにくいだろうということで中止といたしました。今となつては感染も拡大しておりますし、元々、地域の皆様には感染リスクといったことからお願いはし辛い、市の職員だけでエイドステーションなどまわしていこうという思いであったんですけど、こういう状況であると市の職員に感染リスクを負わせるということも業務遂行上危ないなということもありましたので、今となつては、それはそれで良かったなという思いでございますが、市民の方で「何でや」という方もおいでになるかもしれません。所管は教育委員会ですのでお伝えしておきたいと思います。</p> <p>そのほかございませんでしょうか。</p>
濱 教育長職務代理	<p>珠洲市はSDGsの取り組みが非常に進んでいて、先進的だなと思いました。また、コミュニティ・スクール。各県、各市町村がまだ20～30%の段階で、珠洲市は小学校は100%、緑丘中が来年度実施するの</p>

	<p>で、コミュニティ・スクールも珠洲市は先進的に進んでいるということを報告しておきたいなと思いました。</p>
<p>泉谷市長</p>	<p>昨年暮れの「いきもの観察の発表会」であったり、「SDGs 学習の報告会」。先進的で私も凄いなと思いました。最果ての珠洲市ではありますが、素晴らしい教育が行われているなど改めて感じております。学校現場、先生方も頑張ってくださいありがとうございますと思っておりますけど、そうした取り組みをさらに創意工夫しながら進めていければなと思いますし、そのうち珠洲の地にも朱鷺がいっぱい飛んでくればと思っておりますので、併せてよろしく申し上げます。</p>

【 終了：午後 4 時 25 分 】